

老健施設での歯科衛生士の役割 他職種との関わり



山野井美穂 [やまのい・みほ]

介護老人保健施設紀伊の里 (和歌山県)

はじめに

「義歯にひびが入っていたので預かっています」「差し歯がとれました」「動揺歯があります」など、私の仕事は、朝の申し送り前に看護師や介護職から報告を受けることから始まります。その後、ご利用者から「入れ歯が落ちてくる」「舌がピリピリする」などのお話があります。リハビリの職員からは「昨日歯が痛かったらしいです」とか、栄養士や言語聴覚士からは「食事形態のアップを希望されていますが歯の状態はどうですか」とか、うれしいことに他職種の職員からの報告・相談が多々あります。

施設紹介

「紀伊の里」は入所定員81名の従来型老健施設です。1995年の開設とあって、建物や設備は最新式とはいえませんが、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士などの専門職を手厚く配置し、多職種協働で積極的に在宅復帰・在宅療養支援に取り組んでいる、介護報酬上の「超強化型老健施設」です。医師の山野雅弘施設長は、併設する有床診療所「紀伊クリニック」の院長も務めています。

業務について

私は当施設に入職して15年目になります。

以前は歯科医院に勤めておりましたが、ある日、息子さんに連れられて高齢の女性が来院されました。息子さんがおっしゃるには「母は施設に入所しているのですが、最近食べなくて施設の先生から歯科医院への受診を勧められました」と。その女性は発語がなく、自ら訴えることができない状態でした。口腔内には上下総義歯が入っており、外すと下の歯肉に大きな傷がありました。また義歯の内面はかなり汚れていて、粉末の薬だと思われる粒子が固まっており、私

には義歯がまるで凶器に見え、衝撃を受けたのを覚えています。自ら痛いとも言えず、義歯を外すこともできなかったであろうと思われ、「施設での口腔ケアはどうなっているのだろう」とそのとき疑問をもったことが、高齢者施設で歯科衛生士の仕事がしたいと思ったきっかけになりました。

施設での業務は、新規入所者の口腔状態の確認と口腔ケア用品の選択。そして、口腔ケア・検食・食事介助・嚥下会議・歯科往診の補助、それら業務のパソコン入力作業等です。

まず私が心がけていることは、新規入所者に快く口を開けてもらうために雑談から入り、身体の調子や食事の要望等を聞きつつ、口腔状態の不具合がないかを確認することです。

施設では毎食後口腔ケアを実施しています。歯磨き習慣がないご利用者もいらっしゃいますが、初めは無理強いせず、洗口だけしていただく、少し時間を置くなどの工夫をしています。

月に1度、嚥下委員会が開催する嚥下会議では、看護師・介護職・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士のメンバーで、食事形態の変更やトロミ剤の使用を検討、食事席や補助具・特殊皿を使うかどうかの意見交換を行い、定期的に職員に対して口腔ケア研修等も実施しています。

歯科衛生士としての他職種との関わり

医療・介護いずれの分野においても、口腔・栄養・リハビリの一体的ケアの提供が要介護者の重度化防止・自立支援に向けて重要視されています。リハビリの効果は栄養状態に左右され、栄養状態改善のためには口腔状態が非常に重要になってきます。

私が当施設に入職した当時は歯科衛生士がおらず、業務内容も手探りの状態でした。しかし、歯科衛生士がいなかったにもかかわらず、職員が入所者全員